

## 第2回 シンポジウム

# こちよさを伝える新しいものさしを考えよう

## 室内環境の良さを伝える指標作成に向けた意見交換会

2026年1月30日(金) 17:00~19:00

オンライン開催【ZOOM ウェビナー】 参加無料

申込はこちら



クリック

読み取り

申込 URL は巻末にも記載しています

2025年4月から省エネ基準適合の全面義務化もはじまり、住宅・小規模非住宅建築物におけるエネルギー分野では、一次エネルギー消費量やBEI、外皮性能としては $U_A$ 値や $\eta_{AC}$ 値、制度としてはZEHやBELSが普及しつつあります。

一方で、熱・光環境といった室内環境の良さや、土地や相隣条件に起因する快適性が、住まい手にとって分かりやすい形ではまだ十分に評価されていません。

そこで、国立研究開発法人 建築研究所では「誰もがわかる快適な室内環境の新しいものさし」の構築を目指して、第一回目に続き良質な室内環境の研究に携わる2名の方をお招きし、現場で求められる【こちよさの指標】とは何か、ご講演とパネルディスカッションを通して議論を深めて参ります。

シンポジウム終了後、アンケート形式で、皆様の考える【こちよさの指標】についてのご意見をお寄せください。今後もシンポジウムを重ねていく予定です。

## プログラム

17:00~17:05 開会

17:05~17:15 第1回シンポジウム振り返り 熊倉 永子氏 (国立研究開発法人 建築研究所 主任研究員)

17:15~17:25 主旨説明 三浦 尚志氏 (国立研究開発法人 建築研究所 上席研究員)

### 本シンポジウム開催の狙いと参加者への室内環境指標に対するご意見のお願い

17:25~17:45 鈴木 大隆氏(地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 理事)

#### 建築外皮技術がもたらす室内環境の質の向上をどう表すか

基準や施策の策定に関わり30年以上となりますが、それらは北総研庁舎をきっかけに設計参画した数多くの先進的学校建築の実現の過程では原動力ではありませんでした。また2011年3月に発生した大震災で喪失した住宅の再建活動では、性能や建設費の一部を誘導・支援するそれらが、住まいづくりの強い動機にはつながりませんでした。これらの経験はその後の思考に大きな影響をもたらしましたが、それらはなにか・・・その一端をお話したいと思います。



17:45~18:05 前 真之氏(東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 准教授 博士(工学))

#### GX時代の住宅室内環境指標の考え方

昨年2025年は4月の断熱等級4の適合義務化に続き、GX志向型補助事業により断熱等級6への認知が一気に高まりました。

住宅の外皮性能に求められるファイナルアンサーが出せる時代に来ています。差別化を目的に枝葉末節にこだわるのではなく、「全ての住宅が備えるべき十分な性能」を考えます。



18:05~18:55 パネルディスカッション 鈴木 大隆氏・前 真之氏・三浦 尚志氏 (進行)

18:55~19:00 閉会

申込 URL :

#### 【個人情報の取り扱い】

ご登録いただいた個人情報は、以下の目的に限り利用いたします。

- ・本ウェビナーの開催・運営・管理(参加登録完了通知、視聴用URLの送付など)
- ・今後のウェビナーのご案内
- ・本研究課題に関わる意見募集および情報共有等のご案内

主催者及び事務局は、ご本人の同意なく第三者に個人情報を提供することはありません。上記内容にご同意の上、ご登録ください。

主催 : 国立研究開発法人 建築研究所 環境研究グループ

20260127

